◆環境保全のための循環型社会の構築

廃棄物を取り巻く環境は、環境保全のための循環型社会の構築に向けた取り組みへの時代へと変化してきている。

廃棄物の3Rを総合的に推進するために、自治体が自主性と創意工夫をもって、廃棄物の処理やリサイクル施設の整備を推進し、循環型社会の形成を図っていくことが求められている。

従って、今回の広域ごみ処理施設の建設も、施設整備そのものが目的ではなく、環境保全のための循環型社会の構築に向けた手段の一つといえる。

◆今後のスケジュール

来年の1月には、広域ごみ処理体制の基本計画が出来上がる予定。パブリックコメント等基本計画に対して住民の皆さんの声を広く反映させていく。

平行して適合地の選定、事業主体の検討、循環型社会形成推進地域計画、生活環境影響調査などを経て用地買収、建設工事と進んでいく計画である。

ふじみ野市と三芳町の合同の検討委員会は、今後1年間で6回ほど予定されている。今回で3回目であったが、両自治体の委員会のここまでの進捗状況に若干の差異が感じられる。

今回の検討委員会で、ある委員さんから「この計画は、国からの補助金をもらうための補助金ありきの計画ではないか」という指摘があった。ごみ処理の問題では、世界、全国で様々な取り組みや成功事例もあり、紹介をされていた。

神奈川県の葉山町では、近隣の横須賀市、三浦市との「ごみ処理広域化協議会」を解散し、「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）」の方針をとることを決めた。これは、ごみの資源化・減量化を目指して「脱焼却・脱埋立」を、単なる理想論ではなく、現実の目標として行動していく政策で、ゼロ・ウェイスト宣言をする都市も増え始めている。

今回の検討会議で、平成28年度供用開始の目標年度は決定されたが、時間の許す範囲で、違う観点からも幅広く検討を重ねる必要があるのではないかと感じた。

自らの勉強不足を反省しているところでもある。

3R（すりーあーる、さんあーる）とは、

以下の３つの語の頭文字をとった言葉。
環境配慮に関するキーワードである。
Reduce　リデュース：減らす
Reuse　リユース：再び使う
Recycle　リサイクル：再資源化
1.リデュース（ごみの発生抑制）、2.リユース（再使用）、3.リサイクル（ごみの再生利用）の優先順位で廃棄物の削減に努めるのがよいという考え方を示している。

日本では２０００年（平成12年）に循環型社会形成推進基本法において3Rの考え方が導入され、①リデュース ②リユース ③リサイクル ④熱回収（サーマルリサイクル）⑤適正処分の優先順位で廃棄物処理およびリサイクルが行われるべきであると定めた。以来3Rの理念を広く市民や企業に浸透させるべく、政府機関や市民団体が様々なキャンペーンを行っている。

２００４年6月の主要国首脳会議（G8サミット）において、当時の内閣総理大臣・小泉純一郎は3Rを通じて循環型社会の構築を目指す「3Rイニシアティブ」を提案した。２００５年4月には3Rイニシアティブ閣僚会合が開催され、アメリカ合衆国、ドイツ、フランスなど20か国の参加の下、3Rに関する取組みを国際的に推進するための議論が行われた。

◆えだまめ狩り

燃え盛る上富の大地で、7月27日、8月3日の二日間にわたり、えだまめ狩りが行われた。

主催した三富落ち葉野菜研究グループは、三富の循環型農業を保全し、多くの方に知ってもらおうと、冬には、平地林保全のための落ち葉掃き、夏にはえだまめ狩りを企画している。

今年は１０００人近い参加者があった。小さな活動が共感を呼び、大きな輪となって広がっている。これからの展開が楽しみだ。

スタッフの皆さん

井田和宏氏
島田喜昭氏
早川光男氏（代表）
早川徹氏